

第4班

水辺の生活環境史

〔① 水上生活者の歴史的変容（水上生活班） ② 汽水域の民俗文化（汽水班）〕

（1）共同研究員名

研究代表者：安室知（汽水班・総括）

研 究 員：田上繁（水上生活班・総括） 森武磨（水上生活班） 川島秀一（汽水班）

研究協力者：常光徹（汽水班） 藤川美代子（水上生活班） 山本志乃（汽水班）

松田睦彦（汽水班） 若宮幸一（水上生活班）

（2）研究目的

本共同研究は、河口部に見られる汽水域を生活の場とする人々の生活文化について環境史の視点から究明することを目的とする。同時に、非文字資料研究としてのオーラルヒストリーおよび生活環境史の手法を開拓する。具体的には、大きく2つのテーマから上記の問題に迫る。

① 水上生活者の歴史的変容

江戸時代、日本列島には陸に家を持たず水上で暮らす「家船（えぶね）」という生活形態があった。近代に入っても、さまざまにその様態を変えながら水上生活者は各地に存在した。研究対象地として北九州の洞海湾を取りあげ、筑豊炭鉱の発展に伴う石炭輸送の担い手として登場した水上生活者の推移と、洞海湾の環境・景観の変化を追究する。現地調査においては水上生活体験者の口述資料や写真・映像資料の収集をおこなう。

② 汽水域の民俗文化

日本列島の場合、河口部や潟湖・内湖といった沿岸環境の多くは淡水と海水が入り交じる汽水域となり、そこには独特の民俗文化が形成されてきた。たとえば、淡水魚とともに海水魚も棲息する汽水域では独特な漁撈技術や低湿地農耕が発達する。また、そこは海から河川への荷の積み替えがおこなわれるなど、水上交通の要地ともなっている。こうした汽水域独特の文化要素を繋ぎ合わせ、日本列島の生活環境史研究として総合化し、新たな視点に立った「汽水文化」を提唱する。

（3）活動経過

〈2011年度〉

- ・合同調査（水上生活班）

調 査 地：北九州市若松（洞海湾周辺地域）

調査日程：8月1日（月）から8月4日（木）

参 加 者：田上（研究員）、森（同前）、藤川（研究協力者）、若宮（同前）、近石（大学院生）、
新垣（同前）、平田（同前）

調査内容：元船上生活者への聞き取り調査

わかちく史料館・旧古河鋳業若松ビルにて資料調査

若松図書館にて写真資料調査

・合同調査（汽水班）

調 査 地：高知県四万十市、四万十町、中土佐町、大豊町（四万十川河口域）

調査日程：2012年3月24日（土）から3月26日（月）

参 加 者：安室（研究員）、川島（同前）、常光（研究協力者）、山本（同前）、
松田（同前）、岡村（現地調査協力者）

*ただし、常光・松田は国立歴史民俗博物館の予算で出張した。

調査内容：大豊町立民俗資料館（定福寺豊永郷民俗資料館）にて民具調査

アオノリ養殖業者への聞き取り調査

カツオ漁業者への聞き取り調査

川船船頭への聞き取り調査

地元研究者（坂本正夫氏）との懇談

〈2012年度〉

・研究会（汽水班・水上生活班合同）

開 催：6月10日（日） 神奈川大学

参加者：田上、安室、川島、常光、山本、松田

研究発表1 「洞海湾の水上生活者について」 田上繁

2 「汽水域の漁撈」 安室知

全体討論

・合同調査（水上生活班）

調 査 地：北九州市若松（洞海湾周辺地域）

調査日程：8月6日（月）から8月9日（木）

参 加 者：田上、森、安室、若宮、安田（調査協力者）、松本（大学院生）

調査内容：若松児童ホーム関係者および元船上生活者への聞き取り調査

わかちく史料館・旧古河鋳業若松ビルにて資料調査

若松図書館にて写真資料の記録

・合同調査（汽水班）

調 査 地：鳥取県境港市、米子市、島根県松江市（中海周辺地域）

調査日程：9月5日（水）から9月7日（金）

参 加 者：常光、山本、松田、川島、安室、檜村（現地調査協力者）

調査内容：中海漁師への聞き取り調査
魚卸商への聞き取り調査
ボタン行商への聞き取り調査
地元研究者（坂田友宏氏）との懇談

• 研究会（汽水班）

開 催：2013 年 2 月 14 日（木） 神奈川大学
参加者：安室、川島、常光、山本、松田
全体討論

〈2013 年度〉

• 研究会（汽水班）

開 催：7 月 19 日（金） 神奈川大学
参加者：安室、川島、常光、山本、松田
巡 検：横浜市長浜公園（人工汽水池）
全体討論

• 合同調査（水上生活班）

調 査 地：北九州市若松（洞海湾周辺地域）
調査日程：8 月 3 日（土）から 8 月 10 日（土）
参 加 者：田上、森、安田、若宮、松本
調査内容：若松児童ホーム関係者および元船上生活者への聞き取り調査
わかちく史料館・旧古河鋳業若松ビルにて資料調査
若松図書館にて写真資料の記録

• 合同調査（汽水班）

調 査 地：大阪中央卸売市場
調査日程：8 月 26 日（月）から 8 月 28 日（水）
参 加 者：常光、山本、松田、川島、安室、酒井（現地調査協力者）、小藤（同前）
調査内容：魚介仲買業者への聞き取り調査
市場関係者への聞き取り調査
雑喉場跡の巡検調査
大阪市立自然史博物館にて資料調査
地元研究者（酒井亮介氏・小藤政子氏）との懇談

• 研究会（汽水班）

開 催：2014 年 2 月 21 日（金） 旅の文化研究所
参加者：安室、川島、常光、山本、松田
巡 検：築地市場おさかな普及センター資料館、波除稻荷神社
全体討論

(4) 研究成果

本誌別頁参照。

水上生活班は別冊にて報告書を刊行し、汽水班については非文字資料研究センター年報 10 号に報告した。

(5) 今後の課題と展望

第 2 期研究プロジェクトにおいて、共同研究「水辺の生活環境史」は水上生活班と汽水班を統合する形で研究がおこなわれた。しかし、第 3 期研究プロジェクトにおいては、それぞれ共同研究は継続するものの、方法や研究目的の違いを明確化するために別の共同研究として組織することとした。